

6

放射性セシウム除染後圃場における そばでの営農再開

2011年3月の東日本大震災に伴う東京電力福島第一原子力発電所の事故により放射性セシウムが飛散した圃場では、表土の削り取りといった物理的除染と客土が実施されています。一方で、当時は除染後圃場でのそばの生産性や放射性セシウムの移行性についての知見はありませんでした。そこで、川俣町山木屋地区の除染後圃場において栽培試験を行い、生産者の方々と共にそばでの営農再開に取り組みました。

農業放射線研究センター

久保堅司

KUBO Katashi



《カリ施用による放射性セシウムの移行低減》

そばの放射性セシウム移行低減対策は、栽培前の作土の交換性カリ含量をカリ肥料で乾土100gあたり30mg K_2O 以上とした上で、地域の施肥基準に応じた施肥を行います。除染後圃場においても作土の交換性カリ含量を高めることにより、放射性セシウムの移行を低減できることを確認しました(図1)。

《窒素肥料の増施による生育改善》

除染後圃場の作土の窒素成分は低い場合が多いことが分かりました。除染後の作付け初年目は窒素肥料を通常量の2倍

施用することにより、そばの生育が改善することが示されました(図2)。

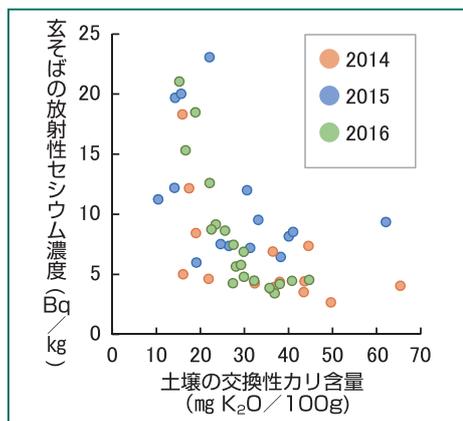


図1 / 土壌の交換性カリ含量と玄そばの放射性セシウム濃度との関係

《生産者との取り組み》

営農再開した除染後圃場においては、作土の放射性セシウム濃度や交換性カ

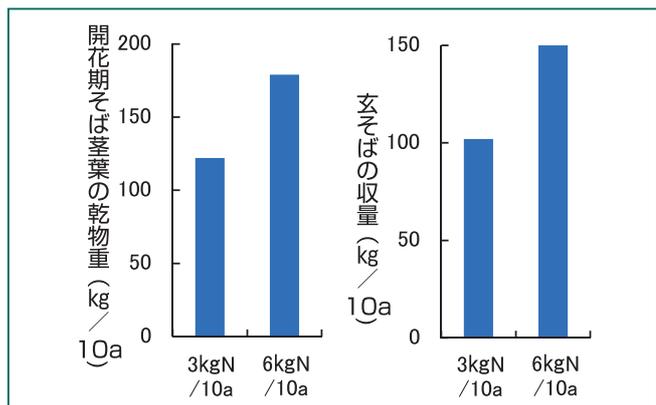


図2 / 作付け初年目の窒素施肥量がそばの生育と収量に及ぼす影響

リ含量を測定し、必要なカリ施肥量等について情報提供しました。営農再開以来5年間の栽培で基準値超過は認められていません。収穫されたそば(写真1)は地元のそば店に供給され始めています。さらに、地元の収穫祭でも供され、住民の交流の場となっています(写真2)。



写真1 / 生産者による除染後圃場でのそばの収穫



写真2 / 地域の収穫祭

《避難指示解除地域における研究・営農支援》

放射性セシウムの飛散の影響を比較的強く受けたことにより、これから避難指示解除・営農再開される地域もあります。研究・技術開発の面から生産者の方々と支援できればと考えています。